

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	葦北郡田浦町立田浦中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	57	59	51	1	168	

研究の概要

1. 研究主題(及び主題設定の趣旨)

<p>生徒一人一人に確かな学力をつける教育活動の工夫 ~ 基礎・基本習得の場の設定と意欲的な学習態度の醸成を中心として ~</p> <p>主題設定の趣旨 ・学習内容の厳選や授業時数削減による学力低下に対する社会の不安の払拭 ・本校教育の重点実践事項の「基礎学力の確実な定着」をめざした実践 ・生徒の実態として基礎学力の定着にやばらつきが見られることや生徒の家庭学習の取り組みに課題がありその解決を図るため</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科

(2) 年次ごとの計画

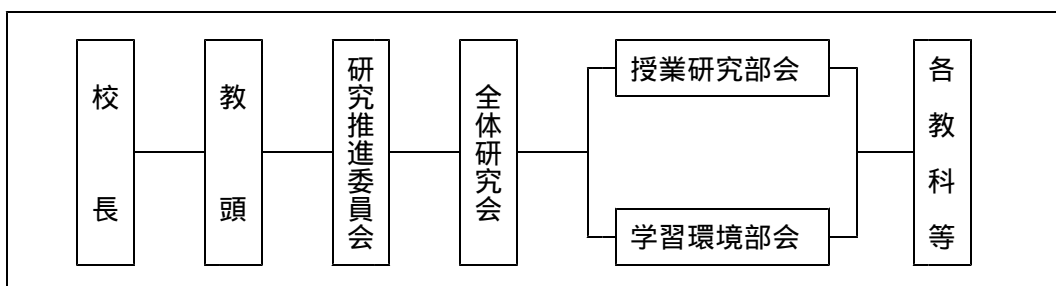
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 生徒一人一人に確かな学力をつける教育活動の工夫 ~ 基礎・基本習得の場の設定と意欲的な学習態度の醸成を中心として ~</p> <p>仮説 確かな学力の基盤となる基礎・基本を確実に身につける場を設定し、生徒が主体的に学習に取り組むための授業展開の工夫改善や学習態度の育成、学習環境づくりを行えば、生徒一人一人の確かな学力の育成につながるであろう。</p> <p>研究内容・方法 (1) 全教科共通課題の設定(授業研究部会) ・能動型学習と徹底指導のめりはりのある授業(熊本型教育)の展開の工夫・改善 (2) 個に応じた指導の工夫 ・少人数指導やTTによる教材開発や指導方法の工夫・改善 (3) 学習環境の充実(学習環境部会) ・生徒会活動を中心とした学習態度の確立等 ・家庭や地域との連携による学校教育、家庭教育への関心の高揚</p>
--------	---

平成16年度	16年度は継続研究
--------	-----------

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 全教科共通課題の設定（授業研究部会）
- ・ 能動型学習と徹底指導のめりはりのある授業展開の工夫・改善として各教科で次のような内容に視点をあてたパターンづくりを実施した。
 - 学習課題の提示(示す・残す・活かす)
 - 課題解決学習の場の設定（能動型学習）
 - 学習した内容の確実な定着の場の設定（徹底指導）
 - 授業内容のまとめ及び自己評価の実施（小テストの実施および自己評価表の活用）
 - これを通して、授業改善の方向性を示したことにより、職員の徹底指導と能動型学習のめりはりを意識した授業(熊本型教育)展開への意識の高まりが見られた。
 - ・ 朝自習を見直し「Power Up Time」と称し、次のように取り組んだ。
 - 教科取組期間 毎週木曜日から次の週の水曜日までの1週間
 - 時間帯 毎日8時20分から8時40分までの20分間
 - 実施形態 月・水・金は生徒による自習、火・木は全職員による個別指導（生徒への励ましや言葉かけなど学習の雰囲気作りに努める。）
 - チェックテスト 日課の工夫により水曜日の帰りの会の前に20分間の定着テストを実施し、テストの結果によっては放課後の時間等を利用した個別指導を実施
 - 学習課題 五教科の基礎基本と思われる内容を教科ごとに準備
 - 週2回の全職員による指導は生徒の実態把握につながった。また、声かけなど生徒の意欲を高めるために効果的であった。
- (2) 個に応じた指導の工夫
- ・ 数学、選択数学では生徒の自己評価と確認テストでのコース選択による少人数指導の実施した。
 - <生徒の意識調査>
 - アンケート結果によると「少人数に分かれて学習していることについて、あなたの学力向上に効果的でしたか」という質問に対して、「効果的である」が54%、「ある程度効果的である」が38%と少人数指導に対してその趣旨が理解されている。
 - ・ 英語を中心としたTT指導では学年毎にT1とT2を固定し、T1担当教師が授業の流れや準備、T2担当教師が個別指導を中心に行っている。T2担当教師はT1担当教師の授業を参観することもでき、授業の在り方についてお互いに研修を深めることができた。
 - <生徒の意識調査>
 - アンケート結果によると約66%の生徒がTTについて「効果的である」「ある程度効果的である」と考えており、その理由として「わからないとき質問しやすい」がもっとも多くTTの趣旨が理解されている。
 - ・ 毎日のホームワークとして校長自ら基礎基本的な学習課題を作成し出題採点、表彰を実施している。これは、生徒の学力の実態把握につながり、各教科の指導に活用している。また、表彰を行うことで生徒の意欲の高場につながっている。
 - <生徒の意識調査>
 - 「わからないことがわかるようになった。」「学習する範囲だけではなくそれ以外のことも調べることができて、視野を広めることができた。」「復習できた。」などの意見があり、生徒の意欲が見られる。

- (3) 学習環境の充実
- ・生徒会全体および各委員会で学力向上をめざした取り組みとして、年間活動計画に目標を位置づけ、「率先して学習に取り組む田浦中宣言 ~ Let's study together! ~」として実施している。
 - ・よりよい学習態度をめざし日頃の学習態度の見直し「5つの学習ルール」をつくり実施している。
 - ・よりよい学習環境をめざして環境美化、掲示の工夫に取り組んでいる。
 - ・家庭や地域との連携による学校教育、家庭教育への関心の高揚
全学年、全学級で学力向上に向けた本校の取り組みを知らせるための授業参観を実施し保護者への啓発を図っている。
保護者へのアンケート調査の結果から、学習や家庭学習の方法への疑問が多く出されたので、「学習の手引き」の作成し、授業で活用を図っている。
学年・学年・学級通信、PTA新聞等を利用した家庭への啓発を図っている。
学校評議委員制度を発足した。

2. 今後の課題

- (1) 生徒一人一人の学習への意欲を高めるような評価方法を研究する必要がある。また、朝自習においては学習の流れはできあがっているが、学習への意欲が高まっていない生徒への対応が今後の課題である。
- (2) 少人数指導におけるコース編制は生徒の選択で行っているが、友人関係でコースを選択したりする生徒も見られる。生徒のよりよい人間関係づくりとともに指導する場合の教具・教材の開発も課題である。また、TTにおいてはT1を主、T2を副とするイメージがあるため、T2担当教師を授業のサポート役としてしか活用できない面があった。主副のイメージを捨て、対等な立場で授業設計を行えば授業形態も変化し有効なTTができるように思われる。
- (3) 生徒会を中心とした活動で、生徒が継続して取り組めるような指導の工夫や十分定着していない内容の徹底を図る必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- 1 学習・生活実態調査
- 2 学力検査等

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 管内小中学校に呼びかけ公開授業および授業研究会を実施
(平成15年12月8日)
2. 平成15年度学力向上フロンティア事業芦北地区協議会参加
(平成16年2月5日)
3. 公開授業等(平成16年度秋予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無